

屋号語彙に表れる集落の地理的分布

徳永 景子¹, 結城 和佳奈¹, 前橋 宏美¹, 一谷 和希², 伊藤 香織¹, 高柳 誠也¹, 岡部 佳世³, 旦 まゆみ⁴

¹東京理科大学 理工学部, ²東京理科大学大学院 理工学研究科, ³LatLng Co., ⁴常磐大学
連絡先: <7117075@ed.tus.ac.jp>

- (1) **動機:** 屋号は、同姓が多い地域などで互いの家を識別するために用いられる家の呼称である。本研究では、地理的背景から屋号を分析し、集落空間との関係性を把握することを目的とする。
- (2) **方法:** 対象地は、現在でも日常的に屋号が用いられる宮城県気仙沼市の唐桑半島とする。「唐桑町屋号電話帳」に記載されている屋号を、漢字で構成される屋号は漢字 1 字ごとを基準として分割し、それらの語を「屋号語彙」と定義する。屋号語彙ごとに標高・海岸線からの距離を測定し、散布図を作成した。
- (3) **結果:** 海に関連する語彙「海」「浜」「崎」「貝」「磯」「岸」「浦」について標高・海岸線からの距離の散布図(図 1)を作成した。海に関連する語彙を含む屋号を持つ住宅の 87.5%が標高 60 m 以下、海岸線から 450 m 以内にある。一方、屋号をもつ全住宅(図 2)で海に関連する屋号語彙は、同範囲にあるのは 67.6%であることから、海岸線沿いに立地する傾向があることがわかる。海岸線から離れたところにある「磯」は、屋号にすべて「磯の沢」がつくため、海ではなく沢の特性を表している可能性がある。海に関連する語彙の分布(図 3)より、「浦・岸」は入り江状で穏やかな気仙沼湾側に多く分布するのに対して、「浜」は湾側、太平洋側に比較的にまんべんなく分布する。「崎」や「貝」のように特定の集落に集中している屋号語彙も見られる。

(4) **使用したデータ:**

- ・「唐桑町屋号電話帳(2002 年)」唐桑町商工会青年部
- ・号レベルアドレスマッチングサービス
- ・基盤地図情報 水涯線・等高線・海岸線データ

- (5) **謝辞:** 本研究は唐桑町商工会青年部による「唐桑町屋号電話帳」の提供を受けることで実現した。さらに東大 CSIS 共同研究 No.921 の成果の一部として実施した。ここに記して謝意を表したい。

(6) **参考文献:**

花岡和聖(2015)小地域地名の語尾と自然災害リスクの関連性。

岡部佳世・他(2020)地域を構成するクラスター: 気仙沼市唐桑町屋号電話帳を用いた道路ネットワーククラスター分析。『地理情報システム学会講演論文集』

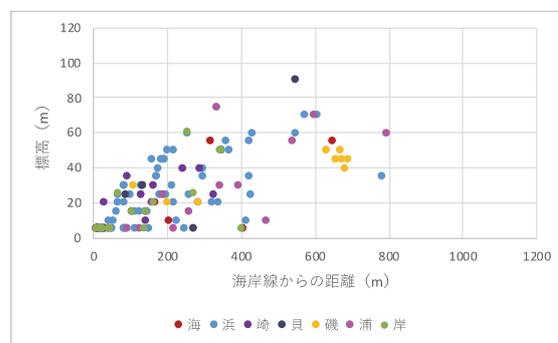


図 1: 海に関連する語彙を含む屋号を持つ住宅の標高・海岸線からの距離の散布図

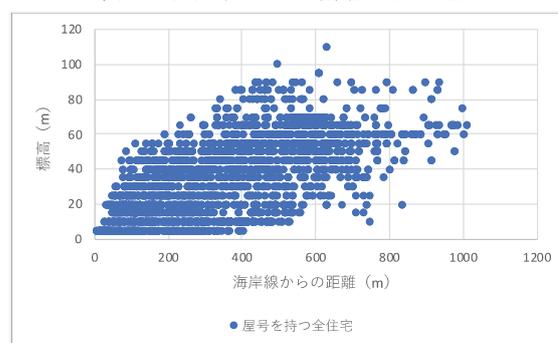


図 2: 屋号をもつ全住宅の標高・海岸線からの距離の散布図

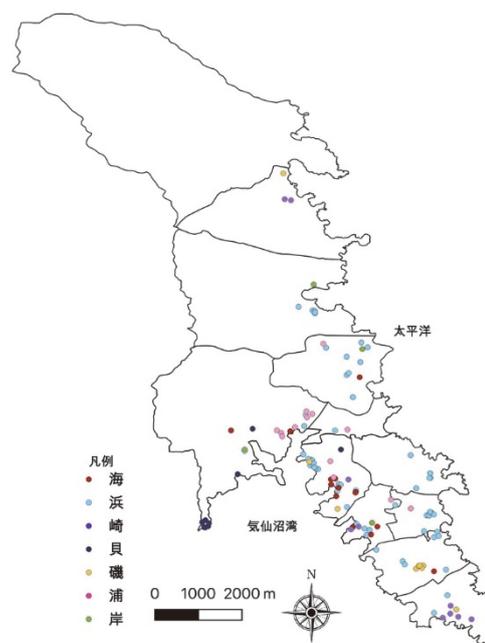


図 3: 海に関連する屋号語彙の分布図